

# 《NPO法人 足もと健康サポートねっと》とは？

全ての人に、苦痛と故障なく歩く喜びを知っていただくため、糖尿病患者をはじめ、足に悩みを持った方に対する支援事業や医療機関やその他の足に関する事業者の連携等の支援事業を行い、足に悩みを持った方へ適切な処置を行う。また足に関するより健全な医療や関連業界の進展を図り、より快適で健全な社会の創造、経済の振興に寄与することを目的とする団体。九州圏内の医療関係者(医師・義肢装具士・看護師・理学療法士など)と靴・インソール製造や販売を含めた靴業界、フットケアサロン業界などの連携を図ることで足(脚)に悩みを持った方々の問題解決を速やかに行えるようサポートする事を目的とした団体です。

## 《理事紹介》

- |  |   |
|--|---|
| <b>理事長</b> ：竹内 一馬<br>(社会医療法人 喜悦会 那珂川病院 血管外科・循環器科<br>特定医療法人 順和 長尾病院 循環器科・フットケア・フットウェア<br>福岡赤十字病院 インソール・爪外来) | <b>理事</b> ：柳瀬 敏彦(福岡大学医学部 内分泌・糖尿病内科 教授)                                  |
| <b>副理事長</b> ：有蘭 泰弘(有蘭義肢株式会社 専務取締役)   | 安西 慶三(佐賀大学医学部 肝臓・糖尿病・内分泌内科学 教授)   |
| 倉富 英史(有限会社クラトミ 代表取締役社長)  | 竹之下 博正(唐津赤十字病院 内科)  |
|  | 吉田 恵(shoe closet PASSO& 代表)   |
|  | <b>監事</b> ：西田 壽代(足のナースクリニック 代表・日本フットケア学会 常任理事・<br>日本トータルフットマネジメント協会 会長) |

# 《NPO法人 足もと健康サポートねっと》主な活動履歴

- 2009年11月25日(水)  
福大病院フットケアカンファレンス  
会場：福岡大学病院
- 2010年1月17日(日)  
第18回糖尿病フットケア研究会および市民公開イベント  
会場：エルガーラ8F大ホール パサージュ広場  
参加人数：3000人
- 2010年1月26日(火)  
福大病院フットケアカンファレンス  
会場：福岡大学病院新館地下1F 18:30~20:00
- 2011年2月13日(日)  
第9回 日本フットケア学会年次学術集会大会市民公開講座  
会場：アクロス福岡 地下2階 イベントホール  
参加人数：2,680人
- 2011年12月10日(土)・12月11日(日)  
NPO法人足もと健康サポートねっと市民公開講座  
「歩こう!走ろう!キレイになろう!足のすべて2days」  
会場：博多阪急 7階 イベントホール「ミューズ」  
参加人数：1,813人
- 2013年2月22日(金)~2月24日(日)  
第9回日本整形靴技術者協会学術大会福岡大会  
NPO法人足もと健康サポートねっと主催  
市民公開講座「足もとからはじまる未来」  
会場：JR博多シティ10階JR博多シティ会議室  
参加人数：1,120人
- 2013年9月28日(土)  
福岡市介護実習普及センターフェスタ2013 足・靴の相談会「足って大切~元気に歩こう!つまでも~」  
会場：福岡市民福祉プラザ(ふくふくプラザ)3階交流広場  
参加人数：550人
- 2014年10月11日(土)  
第3回日本下肢救済・足病学会九州沖縄地方学術集会市民公開講座  
(開催場所：JR九州ホールJR博多シティ9階、大会長：竹内一馬)
- 2014年9月13日(土)・2014年9月14日(日)  
第11回日本フットケア学会鹿児島セミナー 市民公開講座  
(大会長：富村奈津子)
- 2014年9月27日(土)  
第28回日本靴医学会学術集会  
パネルディスカッション  
「フットケアと靴医学のコラボレーション」
- その他  
2009年より各病院内での医療従事者やフットケア・フットウェア関係者への勉強会や福岡県内県外での講演会等多数実施している。

## 《NPO法人 足もと健康サポートねっと》今後の活動予定

- |   |  |
|---|--|
| ■2015年9月25日(金)・9月26日(土)<br>第4回日本下肢救済・足病学会 九州・沖縄地方学術集会<br>(大会長：柳瀬敏彦) | ■2016年4月14日(木)<br>第11回那珂川フットケアミーティング                 |
| ■2015年10月24日(土)・10月25日(日)<br>第12回日本フットケア学会久留米セミナー<br>(大会長：石橋理津子)    | ■2016年4月末~5月開催予定<br>NPO足もと健康サポートねっと主催 福岡ウォーキング大会(仮称) |
| ■2015年11月21日(土)・11月22日(日)<br>第29回日本靴医学会学術集会<br>(大会長：塩之谷香)           | ■2016年9月(日程未定)<br>第12回那珂川病院フットケアミーティング               |

- 市民セミナーや相談会の開催
- 定期的な勉強会・報告会の開催
- ウォーキングイベントの開催
- フットウェア・フットケアの啓発活動
- フットウェアの開発や研究
- 足に関する学術活動の推進
- 足に障害があっても快適に過ごせる環境を整備する
- 「寝たきり老人を作らない」運動の提案

## 編集後記

福岡・九州で「足・靴」関連の医学会やイベントが続いている。NHKをはじめ各メディアでも「NPO足もと健康サポートねっと」を紹介、世間の関心の高さが伺える。しかしながら、その世間の関心の高さにに対して医療業界は本当に追いついているのだろうか? (編集長 吉田 恵)

## 賛助会員・サポーター募集中!!

詳しくは、TEL 092-401-5755(アンプロデュース株式会社)までお問い合わせ下さい。

# FOOT LIFE GOOD LIFE

## — 足もと健康サポートねっと通信 —

Vol.4



NPO法人 足もと健康サポートねっと <http://ashimotokenko.com>

## 第3回日本下肢救済・足病学会九州沖縄地方学術集会 市民公開講座



▲会場のJR九州ホールには医師・看護師・理学療法士・運動指導士・義肢装具士などの医療スタッフと靴店・フットケアサロンセラピスト等民間スタッフが集合。

### 講師で来ていただいた方々

- |         |               |
|---------|---------------|
| 倉 富 美 紀 | シューズクラトミ      |
| 吉 田 恵   | 婦人靴専門店パッサンド   |
| 網 熊 あけみ | 藤元総合病院        |
| 猪 熊 美 保 | 新古賀病院 理学療法士   |
| 竹之下 博 正 | 唐津赤十字病院 糖尿病科  |
| 佐 藤 卓 也 | ジャパンマゴットカンパニー |
| 本 郷 貴 弘 | 護王神社 禰宜       |
| 中 島 さとみ | フットケアサロンa sea |
| 有 蘭 泰 弘 | 熊本有蘭義肢株式会社    |
| 竹 内 一 馬 | 那珂川病院 血管外科    |
| 石 井 義 輝 | 健和会大手町病院 形成外科 |
| 杉 原 充   | 福岡大学病院 循環器科   |
| 井 上 敏 生 | 福岡歯科大学 整形外科   |

2014年10月11日(土) 第3回日本下肢救済・足病学会九州沖縄地方学術集会にて、NPO法人足もと健康サポートねっと主催の市民公開講座を開催した。

2009年より年に1度開催されている同NPO足もと健康サポートねっとが企画運営する市民公開イベントも回を重ね今回で6回目となった。

市民公開講座の一般参加者は1321名。参加者の61%が60代以上、男女の比率では80%が女性であった。足や靴に何かしらの問題を抱える高齢者や女性の多さがうかがえる。(イベント会場で配布したアンケート調査結果) 150名収容可能なホールでは糖尿病・透析・靴の選び方などについて13の講演「足についてのミニレクチャー」、フロアでは「医師・看護師による足の無料相談コーナー」「フットケア体験コーナー(無料)」「ABIによる動脈硬化検診コーナー(無料)」、「スロージョギング・ノルディックウォーク・筋トレ」を行う「エクササイズ体験コーナー」など来場された市民の皆さんが楽しく参加できる「9つの体験コーナー」を併設。

「足や靴のトラブルで困った時に相談できる医療機関の有無について」アンケートをとると「相談できる医療機関がない」と69%の方が答えている。足や靴に問題があっても、「何処へ行って相談したらよいか分からない。」「もっと早くに知りたかった。」という方は未だ多い。

このようなイベントを通して「自分の足と健康」についてより興味を持っていただき、一人でも「足難民」となる方を減らすことができるように業種の垣根を越えたチーム医療が更に必要とされている。



▲人気のフットケアブース。セラピストによる、初めてのフットケア体験に喜ばれる方は多い。



▲「どんな靴ができるのかな?」親子で楽しめる「ミニチュア靴作り」コーナーには小さな子供たちも参加。



## 第12回 日本フットケア学会 久留米セミナー

つなぐフットケア

- 会 期：10月24日(土)  
10月25日(日) 市民公開講座  
会 場：石橋文化センター  
大会長：石橋 理津子(社会医療法人天神会 新古賀クリニック 糖尿病センター 看護師長)

## 「糖尿病になってしまったら」 → 早期に医療機関を受診して治療を!!

健康診断や人間ドックなどで、血糖値が高いといわれ、精密検査の結果糖尿病と診断された方はお近くの医療機関で早めの治療開始をお勧めします。

どうしても、食事をがんばって、運動をがんばってから医療機関を受診しようと考えてしまいがちですが、早めに治療開始する事には理由があります。その理由の一つに最近耳にする糖尿病領域の言葉に「Legacy effect (遺産効果)」というものがあります。ご存知でしょうか?

UKPDS (United Kingdom Prospective Diabetes Study) という、新規に2型糖尿病と診断された患者さんを対象に、強化療法 (SU薬あるいはインスリン治療) 群と従来療法 (食事と運動療法) 群に分けて、糖尿病から引き起こされる合併症の発生率をみた英国の試験があります。結果は診断されて平均10年たった時点で、血糖コントロールの指標であるHbA1c (ヘモグロビンA1c; 前回の項に詳細があります。) は強化療法群がHbA1c7.0%、従来療法群がHbA1c7.9%と血糖コントロールが強化療法群でよい状態になりました。そのため、糖尿病からの腎臓や目の病気 (細小血管合併症) は統計学的に有意に減らすことはできたのですが、**心筋梗塞などの大血管合併症は抑えることができず、死亡率も減少しませんでした。**

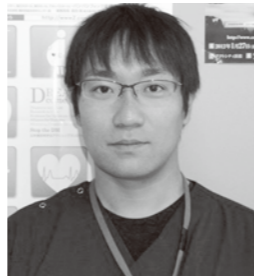
しかし、その後更に10年間試験終了後にその患者さんを追跡調査してみると、なんと、強化療法群も従来療法群もHbA1cは同じ値になってしまったのですが、最終的に10年前認めなかった心筋梗塞の発生率と死亡率も統計学的に有意に強化療法群で減少していたという結果がでました。

つまり、10年前に行ったしっかりとした血糖コントロールの効果がそのまま残り、死亡率を減らすといった効果がでました。これを「Legacy effect (遺産効果)」と言い、**早期治療の重要性が広まっています。**これが早期治療をお勧めする理由です。

では、このデータが皆さん個人・個人に当てはまるか? それは医療機関に受診していただき、合併症などの現状を把握し、適切な治療選択肢を提示してもらわなければ、わかりません。糖尿病になってしまっても、落ち込まず、**早めに治療を開始し、糖尿病とうまく付き合い健康な方と変わらない生活の質を保ちながら、健康寿命を延伸しましょう!!**

### <参考文献>

- ① The UK Prospective Study Group, Intensive blood glucose control with sulphonylureas or insulin compared with conventional treatment and risk of complications with type 2 diabetes (UKPDS 33). Lancet 1998;352:837-853
- ② 10-year follow-up of intensive glucose control in type 2 diabetes. N Engl J Med 2008;359:1577-1589.



唐津赤十字社病院 内科  
日本糖尿病学会専門医  
竹之下 博正

## 糖尿病の症状

### 合併症による症状は?

糖尿病が進むと、合併症による症状が現れます。

- 目がかすむ、視力が低下する
- 足がむくむ
- 足がしびれる、痛い
- 立ちくらみがする
- 傷が治りにくい、化膿しやすい



『生活の質』に多大な影響を与える『糖尿病について』連載で竹之下博正先生に伺ってききましたが、次号[FOOT LIFE GOOD LIFE Vol.5]ではそんな怖い『糖尿病にならないための予防』について、スポーツ健康科学博士、健康運動指導士の松田拓朗先生に教えていただきます。次号もお楽しみに。



松田 拓朗  
1981年生まれ。  
福岡大学病院リハビリテーション部・メディカルフィットネスセンター所属。スポーツ健康科学博士、健康運動指導士。田中宏暁教授の門下生。

## フットケア実践BOOKが出版されました!

メディカ出版より「フットケア実践BOOK 病態・ケア・チーム連携を徹底解説! (糖尿病ケア 2015年 春季増刊)」が出版されました。当NPOメンバー6名 (有園泰弘・嘉数佳代子・倉富英史・竹内一馬・竹之下博正・松田拓朗) も執筆しております。

「糖尿病患者100人の足から学ぶ フットケア実践BOOK 病態・ケア・チーム連携を徹底解説!」(¥4,320)  
佐賀大学 医学部 肝臓・糖尿病・内分泌内科学 教授 安西 慶三 編著  
佐賀大学医学部附属病院 総合・専門外来 糖尿病看護認定看護師 藤井 純子 編著

## 全国でも珍しい! 義肢装具会社が運営する シューズショップ「シュプール」



有園義肢株式会社  
〒866-0815 熊本県八代市長田町3300番地  
電話:0965-33-3983  
HP: http://www.arizono-gishi.com

義肢装具士 有園 泰弘



▲NPO足も健康サポートねっとメンバー研修で有園義肢株式会社見学会(2015年)

弊社は1969年、熊本県八代市にて創業した義肢装具製作所です。元々は創業地である熊本県南地域で活動していましたが、その後熊本市と周辺地域、また10年前より福岡地域に進出し活動地域を広げています。

福岡で活動する際に不自由と覚えることが弊社名の「アリゾノ」という名前です。九州地域にはほぼ各県に「アリゾノ」と名前の付く、弊社とは異なる別の義肢装具製作所が存在します。(福岡県内にも3か所ある) そのため患者様、医療関係者が混乱をきたすことがないよう「熊本(八代)のアリゾノ」ですという紹介から始めることが少なくありません。

さて、当『NPO法人足も健康サポートねっと』での弊社の事業は足関連の義肢装具の作成及び靴販売です。日本では治療目的および障がい者に対する靴・インソールの作成は義肢装具士が担っています。(ドイツのように靴・インソールに関して日本とは別の専門資格者が担う国もある)

弊社には義肢装具士が25名在籍しています。国家資格である義肢装具士ですが、専門学校で学ぶ靴・インソールの講義・実習は時間・質とも不足していると言わざるを得ません。

そこで靴・インソールについてより深く学びたかった私は整形靴・インソールの本場であるドイツの整形靴工房にて一年間の研修を行いました。ドイツは靴・インソールの専門資格制度のある国です。

一般に靴の構成物(アッパー、インソール、アウトソール)の中で最も重要なのはインソールです。これは直接人体に触れ、なおかつ荷重を支える部分でもあるからです。また、もう一つ重要なのがインソールとそれを入れる器、つまりインソールと靴との組み合わせです。

そのインソールを入れる靴に着目し、熊本市内に設立したのが「シュプール」という靴店です。「コンフォートシューズ」という種類の靴を中心に販売しております。この靴はドイツが発祥で分厚いインソールが組み込まれているのが特徴ですが、われわれ義肢装具士が作成するインソールを入れるのに最適な靴でもあります。

オーダーメイドインソールは除圧の効果を出すためとクッション性をよくするため、また再調整をしやすいように分厚く作りたいものです。「シュプール」を設立する以前はカタログや写真から患者様に靴を選んでいただいていたのですが、写真と実物の印象が異なっていたり、適合不良があったりと靴選びは困難を極めました。そこでこの分厚いインソールを組み込めるコンフォートシューズを実際に見て履いていただき、ファッション性でも患者様にご納得いただける靴を提供しようという思いで設立した店です。

また、医療現場を含め当店で大切にしているのは靴の履き方指導です。どんなに良い靴・インソールでも装着不良の状態であると意味をなさなければならず、かえって症状を悪化させてしまうからです。

近年日本でも糖尿病患者が増加しそれに伴う糖尿病足病変も増加しています。足病変のある患者で大切なのは足部の皮膚に対して圧力を集中させないことです。足病変の3症状である、潰瘍・壊疽、変形(シャルコー関節)、感覚障害に対して、圧力を集中させないようなオーダーメイドインソール、それに組み合わせる靴を提供する機会も増えてきました。また、潰瘍の新鮮例に対してはセラピーシューズなどいわゆる治療に特化した装具の提供も行っています。

このように弊社は足でお困りの患者様に優れた技術と最新の機材、材料、靴といったフットウェア作成に必要な要素すべてを兼ね備えています。

これからも未永く愛されるフットウェア作りにも邁進してまいります。

オーソペディ靴工房シュプール 〒862-0947 熊本市画図町重富506-2  
【TEL】096-285-5114 【営業時間】10:00~18:00 【定休日】日曜日・祝日 【URL】http://www.shoes-spur.com



▲ドイツミュンヘンの整形靴工房で研修中の私(1997年)

おかつ荷重を支える部分でもあるからです。また、もう一つ重要なのがインソールとそれを入れる器、つまりインソールと靴との組み合わせです。

そのインソールを入れる靴に着目し、熊本市内に設立したのが「シュプール」という靴店です。「コンフォートシューズ」という種類の靴を中心に販売しております。この靴はドイツが発祥で分厚いインソールが組み込まれているのが特徴ですが、われわれ義肢装具士が作成するインソールを入れるのに最適な靴でもあります。

オーダーメイドインソールは除圧の効果を出すためとクッション性をよくするため、また再調整をしやすいように分厚く作りたいものです。「シュプール」を設立する以前はカタログや写真から患者様に靴を選んでいただいていたのですが、写真と実物の印象が異なっていたり、適合不良があったりと靴選びは困難を極めました。そこでこの分厚いインソールを組み込めるコンフォートシューズを実際に見て履いていただき、ファッション性でも患者様にご納得いただける靴を提供しようという思いで設立した店です。

また、医療現場を含め当店で大切にしているのは靴の履き方指導です。どんなに良い靴・インソールでも装着不良の状態であると意味をなさなければならず、かえって症状を悪化させてしまうからです。

近年日本でも糖尿病患者が増加しそれに伴う糖尿病足病変も増加しています。足病変のある患者で大切なのは足部の皮膚に対して圧力を集中させないことです。足病変の3症状である、潰瘍・壊疽、変形(シャルコー関節)、感覚障害に対して、圧力を集中させないようなオーダーメイドインソール、それに組み合わせる靴を提供する機会も増えてきました。また、潰瘍の新鮮例に対してはセラピーシューズなどいわゆる治療に特化した装具の提供も行っています。

このように弊社は足でお困りの患者様に優れた技術と最新の機材、材料、靴といったフットウェア作成に必要な要素すべてを兼ね備えています。

これからも未永く愛されるフットウェア作りにも邁進してまいります。

▼オーソペディ靴工房シュプール(熊本市)店内の様子。本場ドイツの医療機関でも使われる「コンフォートシューズ」



▶PCを用いた最新のインソール製作システムを導入